

会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 片山 竜美

1 日 に ち	令和8年 5 月26日(火)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	山梨実験センター(山梨県都留市小形山271-2)
3 参 加 者	片山竜美・寺島芳枝
4 調査・研修の テーマ	超電導リニア走行試験への立会(試乗体験)
5 主な内容	・42.8Kmの実験線を、約30分間で最高時速500Kmの浮上走行を体感する超電導リニア走行試験への立会。 ・隣接する山梨県立リニア見学センターやどきどきリニア館でのリニアの原理や開発の歴史をまなぶ。
6 所感、提言事項、課題等	【片山竜美】 国家プロジェクトである「リニア新幹線」に試乗させていただき、とても貴重な経験をさせていただいた。 山梨県にある実験場から東京方面、大阪方面と3度ほど往復し、20分ほどで約80kmを走行した。 外の景色はほとんど見えないので、時速500kmで走行しているという実感がわかなかった。また、後ろ向きで走行している時間もあったが、これも実感がわかなかった。 車輪走行から超電導走行への切り替えは体感できた。また、勝手に静かに走ると思っていたが、想像よりも震度や音もあり、著しく快適な乗り心地というわけではなかった。 まだ、進化途中なので、今後の改善に期待したい。いずれにせよ、現在、そしてこれから起きてくる諸問題を誠実に解決しながら、1日も早い完成、開通を願うばかりである。 【寺島芳枝】 日本のリニアの開発は1962年にスタートし1970年代の基礎実験から車両の進化の過程(車体の変化やボディのデザインなど)が見られ、とても興味深かった。カモノハシのような先端もよりスマートな顔に。現在は改良型試験車で実証され、実用化に向けた最終段階に入っている。 車輪走行から浮上し時速500kmに達する時には音の変化もあり、緊張しながら貴重な体験となった。東海道新幹線も夢のようなスタートであった様に、リニア新幹線も長い時間と研究者の探究から実現していく過程に立ち会える事に嬉しく思う。が反面、動植物や水脈など環境への配慮の懸念も同時に感じる場所である。しかしながら、大規模災害による東海道新幹線の長期不通による損害を思うと、強力なサポートを担う役割は大きく期待したい。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。